

今、この人に聞く!

地域ぐるみで 観光を盛り上げる 佐渡版DMO始動!

三浦基裕

新潟県佐渡市長

佐渡市は世界遺産の登録を目指す金銀山、地殻変動がつくり上げた独特の景観、特別天然記念物のトキなど豊かな資源に恵まれた土地。だが、人口減少に歯止めがかからず、三浦基裕市長にはそういった停滞を打破することが期待されている。今年4月には佐渡版DMO(観光地域づくりのプラットフォーム)がスタート。意欲的な取り組みの数々を聞いた。

聞き手 ● 柏木正博 本誌発行人 構成 ● 丸山貴未子 撮影 ● 河野利彦 写真提供 ● 佐渡市役所 佐渡観光PHOTO



Motohiro Miura

1957年(昭和32)佐渡市生まれ。80年上智大学文学部新聞学科卒業後、日刊スポーツ新聞社に入社。09年(平成21)6月代表取締役社長就任。11年6月退職。その後、一般財団法人佐渡市スポーツ協会常務理事を務め、16年4月に佐渡市長就任。「変化球は投げない。真正面からぶつかる」ことを信条に掲げる。

基本的な発想の転換で 佐渡版DMOがスタート

市長就任以来の念願である佐渡版DMOがいよいよ立ち上がりまします。

三浦基裕市長(以下、三浦) 今回のDMO設立では、これまでの組織ややり方を一新しようと思っています。佐渡観光協会も佐渡地域観光交流ネットワークも一度解散し、ゼロからの出発です。もちろん新組織で必要な役割はそのまま担っていただくこととなりますが、そのために一般社団法人佐渡交流機構が、4月1日に登記のはこびとなりました。

佐渡はあれだけ魅力的な資源があるのに、観光客が減っているそうすね。

三浦 1991年(平成3)の123万人をピークに、2014年度には50万人まで減少しています。これまでの観光事業は、観光業者を中心に団体観光客への対応をメインに進められてきました。今後は、今まで観光と関わりを持ってこなかった一次産業やスポーツ、郷土芸能などさまざまな産業を巻き込んで、島内全体に経済効果をもたらすことをもくろんでいます。農林水産だけでなく、佐渡の生活



佐渡市 日本海の新潟市沖約40km。面積は約855km²、海岸線は約280km。東京23区の約1.4倍の広さ。人口は約57,000人(2017年3月末現在)。北に金北山(1172m)、南には大地山(645m)の山地があり、中央部に国中平野が広がっている。また、史跡佐渡金山は1601年(慶長6)、江戸幕府により開山された。

すべてが観光資源という視点です。旅行パッケージツアーを売ることに力を注いでいく。そういう基本的な発想の転換が、必要だと思っています。

確かに佐渡の魅力は一般に伝わりきっていないという印象があります。例えばあれだけ食の資源があるのに、打ち出し方が上手とはいえずもったいない。もっと洗練されたやり方をすれば、「食の佐渡」として売り出せるのではありませんか。

三浦 佐渡は洗練以前の問題かも(笑)。地域の食材を使っていない店や宿もまだ多いんです。佐渡の食や宿の評判がいまひとつというのわかってはいますが、行政がチームを組んで、水産業者と宿泊施設をつなぐパイプ役になろうとしています。例えば、水産業者には年間の買い取り額を保証し、買い取った素材は随時ホテルや旅館などに小売りしていく。行政がそういった地域商社的な役割を果たして、どの宿へ行っても佐渡ならではのうまいものを食べられる環境を整えていきます。

佐渡の観光資源づくりは複合的な視点を持つて

ダイナミックな動きになりそうですね。

三浦 合わせ技というのでしょうか。1つ1つ、つくりかえていけばいいという話ではないですね。例えば佐渡には「伝統文化と環境福祉の専門学校」があり、伝統建築学科では宮大工を養成しています。ところが、毎年10名以上いる卒業生のほとんどが奈良や滋賀へ就職してしまいます。こんなもったいないことはないわけです。そこで学校を運営しているNSGカレッジリーグにお願いして、宮大工の事業法人を始めてもらうことになりました。

また、米もこれからの課題です。佐渡のホテルや旅館でも佐渡産のコシヒカリ「朱鷺と暮らす郷」を使っていないところがあります。単価が高いという問題があるからで、現状はそれぞれの事情に任せるとい形になっています。土産物に関しても、パッケージのデザインが違うだけで中身は日本全国どこへ行っても同じという商品を売っている限りはダメだと思っています。

佐渡独自の工芸品や食品の商品開発を徹底してやらなければ。私はいまもDMOの仕事だと考えています。

の修理保存に使うことは難しいので、民間ベースでの基金づくりができればと思っています。

DMOもこの振興財団や宮大工の事業法人も全部合わせ技での観光資源づくりという考えで、複合的にやっていかないと意味がないと思っています。

金山の町・相川を安心して人が歩ける二方通行の道に

佐渡金銀山の世界遺産登録を

見据えての施策もありますか。

三浦 今、腰を据えて10年計画で取り組もうと言っているのは、金山のある相川の町にどうにかして人を歩かせたいということです。相川は昔ながらの町ですから、入り組んだ細い路地が多いのですが、その狭い道が両面通行になっているため危なくて人が歩きにくい。これは佐渡市だけでなく県や警察の協力も仰いで、安心して歩ける一方通行の道を増やしたいですね。

観光バスも今は大型のバスが周辺をぐるっと回るだけで、町の中へは入りません。ゆくゆくは、小型のバスが金山も含めて周遊できるようにしたい。町の中にバス停はおかず、パスさえ買っていたられば、降車ボタンを押したところで降りられ、手を上げた場所から乗ることができる。あとは好きなだけ散策の楽しめる町に、というのが私の最終的に目指すところです。そのためには、一方通行の



1 サンテラ佐渡スーパーアリーナで行われた、大相撲夏巡業でデビューする三浦市長(土俵中央)。2 佐渡島で行われる国内最大級の自転車イベント「佐渡ロングライド210」でスターを務める三浦市長。(写真提供:佐渡市役所)